

C-3 運動会における指導の実際

「自発的・自治的な話し合い活動を目指して」

～運動会での応援団・リレー、綱引き選手選出の話し合いを通して～

1. 実践のねらい

4月の学級開きで、学級目標を決める話し合いをもった。話し合いの当初は、積極的な意見交換はあまり見られなかったが、担任が意見を求めると、子どもたちから、「こんな学級にしたい。」という考えや願いがたくさん出てきた。そして、子どもたちは、願いをつなぎ合わせ、まとめることで学級目標をつくり上げることができた。その後、何度かの話し合い活動を観察する中で、活発に意見が言える子どもとそうでない子どもの差が大きいことが感じ取れた。発言の少ない子どもに聞いてみると、その多くが、人前で自分の考えを表現する経験が少ないために恥ずかしいと感じたり、自分の考えが間違っていて否定されるのではないかと思ったりしていることが分かった。また、提案理由を大切にしながら発言する子どもが少ないために、話し合いの方向性が定まらなかったり、話し合いが深まらなかったりすることも分かってきた。以上のような実態を踏まえ、計画委員会(学級会係)での議題の選定から、学級での話し合い活動、そして振り返りといった流れのそれぞれの場面での手立てを工夫すること、一人一人の子どもの高まりや課題を見取って次の指導に生かすことのできる評価を進めることにした。

ここでは、実際に行った話し合い活動の例から、個々の指導に生かす評価の在り方を中心に考えたい。子どもたちが、望ましい集団活動を通して学び、様々な力を付けていくのが特別活動である。しかし、集団全体の状況や高まりばかりに目を奪われていると、ともすれば一人一人の子どもの置かれている状況や課題をつかめずにいることが起こってくる。(2) 評価の工夫改善で述べたような指導の手立てを行うことや、個々の子どもに対する評価を生かした指導することによって、子どもたちが、次のような力を付けることができると考えた。

- ① 話し合い活動に対する自信や手応えを感じ、更なる意欲をもつことができる。
- ② 活動全体に対して時間的、心情的な見通しをもち、時間を上手に使うことができる。
- ③ 「自分にとってもよくて、みんなにとってもよい」解決の方法を考え、話し合うことができる。
- ④ 互いの意見を尊重しながら話し合うことで、学級集団全体の中で、より友好的で深い人間関係をつくることのできる。

2. 実践の内容

まず、評価規準に照らして、学級会に入る前にこれまでの計画委員会や学級会での話し合い、話し合いの振り返りの場面をとらえて、一人一人の子どもが、今、どのような力を付けていて、どのような力が必要なのかということの評価をいった。その方法としては担任の観察が中心であったが、学級会ノート(今年度は三馬っ子ノートを利用)に書かれている意見(考えてきたこと)や自己評価(振り返り)なども大切にした。

ここでは、運動会に向けて、各クラスから応援団、リレー選手、綱引き選手を選出することを議題とした学級会での様子を紹介する。文章は学級便りに載せたものである。

《学級活動 1 時間目》

運動会が近づいてきました。6年生は「若い力 2006」「家事の鉄人(個人走)」「風林火山(棒倒し)」の3種目に出場します。詳しい内容は後日学年便り等でお知らせします。

さて、この3種目以外に各委員会を母体とした運動会の係り活動があります。それぞれに分かれ

て、運動会の成功のために頑張っています。また、クラスの代表、各色の代表として「応援団」「4色対抗リレーの選手」それから今年初めて取り入れた「4色対抗綱引きの選手」を選ぶことになっています。クラスでのその選考の様子を紹介します。

応援団、リレー選手、綱引き選手は、なるべく多くの児童に活躍の場を与えたいということから、兼ねることができません。応援団の発足が残り2つの発足会の1週間前にあったので、先々週に同時に決めることにしました。(前日までに50メートル走のタイムを計っており、前日の体育の時間に「リレーの選手をきめなきゃいけないね。男子で出たい人？」と聞いたところ何人か出たのでそのメンバーで走らせて見ました。決定は明日の学活の時間にするというのでそこでは決めませんでしたが、「女子は？」と聞いたところA子さん以外手が挙がりませんでした。「まあ、明日決めるときには何人か手が挙がるだろう」と思っていました・・・)

学級会の時間、学級会係3人の司会の下、話し合いはスタートしました。まず、リレーの選手から決めようということになって、男子で立候補する人を聞きました。6人が立候補してくれました。どうやってこの中から決めるかという話になりましたが、「団の代表として走る訳だから、速い人だろう」という意見が出されました。昨日の結果から差はそんなになかったのですが、話し合いの中、自分で考え、2人が「ゆずります」「やめます」と辞退しました。A男、B男、C男さんが候補となり、女子の選手決めに移りました。

「女子で立候補する人はいませんか」・・・誰も手を挙げません。しばらくすると、Aさんが手を挙げました。他の女子は黙ったまま。司会が「してくれる人いませんか」と促すが、拳手も意見出ない。どうして？沈黙が続きました。司会も「となりの人と話し合ってください」「意見が出ないのであてます」など、“司会の進め方”にあるように進めたが、あまりに沈黙が続いたので、自分が「男子も女子もなりたい理由や立候補できない理由があればそれを話そう。クラスの目標は自分らしい反応を返すだけだ。もし誰も出ないなら辞退すればいい。」と話しました。すると、男子の選手候補A男さんが、「僕は小学校最後の運動会なのでリレーも最後だし、出たいです。」と口火を切ってくれました。Aさんが続きます。「1年生の頃から、6年生がリレーをしていたのがかっこよかったからそれを見てリレーの選手になりたかった。」女子の意見が出始めました。

B子 「リレーに出てもいいんだけど、綱引きにも出たいから迷っています。」

C子 「リレーをやってもいいけど、綱引きにでたいのもあるし、リレーはプレッシャーが・・・」

D子 「出たいけど、足が速くないし、みんなに迷惑がかかる。それに応援団にも出たいから。」

E子 「私も出たいけど、足が遅いし迷惑がかかるから出られません。」

F子 「出ても足が遅くて迷惑がかかるから出られません。」

G子 「私は綱引きに出てみたいし、リレーはプレッシャーがかかるから出たくない。」

H子 「応援団に出たいし、プレッシャーがかかるから・・・」

I子 「もし出ても足が遅いから負けるかもしれないから出られません。」

D男 「出てもいいけど、足が遅いしバトンの渡し方もよくわからない。」

と、出たいけど自分の足の速さや団の代表ということを考えて出れない、プレッシャーがかかるという自分の気持ち・本音を何人かが話してくれたりしました。ここで時間が来たので、「先生からの話」のコーナーになりました。それを受けてこう話しました。

「プレッシャーは確かにかかる。みんなに迷惑をかけたくないという気持ちも分かる。でも、そんな経験をする機会はそんなにないぞ。もしバトンを落として負けたとしても、一生懸命やった結果だったら、いいじゃないか。みんなであげればいい。もしその人を責める人がいたら、「今まで頑

張ってきた人にそんなこと言うな！」とみんなでその人を守ればいい。」

「この時間の中で、始めは意見が出なかった。でも、A男さんが口火を切ってくれたこと、「自分
は出れない」と思っているけど、学級全体の問題と捉え意見を出してくれた人がいる。そのことを
忘れないで欲しい。司会も苦労していたけど、みんなで話し合いを活発にするために次の時間どう
すればいいか考えて欲しい。」 ※全体への評価と指導

《学級活動 2 時間目》

A男 「別にリレーで負けてしまってもいいから出たらいいい。女子も出て欲しい。」

B男 「僕もそんなに速くないけど、こんな経験は小学校で最後だから 立候補した。」

A子 「もし負けても頑張ったのならみんな認めてくれると思う。先生も『何事にもチャレンジ』
って最初に言っていた。だからだれか出てください。」

C男 「プレッシャーもかかるけど、こういう経験も最後かもしれないし、女子も出て欲しい。」

B男 「負けて後悔するかもしれないけど、それは直る。けど、やる前から出ないと決めるのはも
っと後悔する。」

男子のリレー選手候補も、女子に自分の気持ちを伝えてくれました。ここで

B子 「リレーです。」

と言いました。「おっ！」と思い、すぐさまみんなの反応を見ました。驚いた顔の子、拍手をしよ
うとしたJ子、何かを言おうとしたE男がいましたが、誰もすぐに反応を返すことなく、しばらく
沈黙がありました。なぜ???司会が「では、B子さんお願いします。」と言うと、みんなも「お願
いします。」と応えました。ここで、B子の思いに対する反応が許せず、思わず口を開きました。

「情けない!!おかしい!!何ですぐに反応しない! B子さんは「綱引きも出てみたい」という気
持ちを曲げて、「リレー出ます」って言ったんやろ。何でその気持ちにすぐに応えない! 「ありが
とう!」「お願いします!」という言葉がすぐにでない?拍手が自然におきない?みんなおかしい
と思わんか。」

クラスがシーンとなりました。ここでチャイムが鳴りました。そのままこの時間は終わりました。

この後、拍手をしようとしたJ子と、何かを言おうとしたE男に個別に話を聞きました。

J子は、『「なんて素晴らしいんだろう」と思いました。手をたたこうとしたけど、他の人がやって
いなかったの、やろうとする気持ちを捨ててしまいました。『誰かが言うまで待っていようかな。
でもせっかく手を挙げてくれたのに・・・』私の心は揺れました。どうするもこうするも一人でや
ることははずかしいとってしまいました。』

E男は、『「ありがとうございます。』と言おうと思ったけど、その時の雰囲気にも負けて言えませ
んでした。そしてこういう時ってどう言えばいいんだろうと悩んでいるうちに司会が言ってしま
いました。今思うとあの時言っておけばすっきりしたのにと後悔しています。』

と話してくれました。感じてはいるのです。後は行動です。2人のように思った人はまだいると思
います。この2人には、まずそう感じ、少しでも表情や行動に出したことを褒め、そこから行動に
移すことが自分の為にも、クラスの為にも大切であることを話しました。 ※個別評価と指導

《学級活動 3 時間目》

話し合いの続きです。司会が「B子さんに対しての言葉はありませんか」と話すと「お願いします」「がんばってください」「応援します」など、一人一人が自分の言葉で応えました。この話し合いでの感想は後で載せるとして、この続きの話を載せます。

この後、応援団を決めることになりました。応援団には、5人が立候補しました。「決め方はどうしますか？」と司会が進めました。先ほどのこともあったのか、意見が良く出ました。

F男 「それぞれ前に並んで1人ずつ応援団への思いを話して多数決にすればいい。」

K子 「それそして、やる気だけじゃなくて、声の大きさも大切、盛り上げも大切なので声の大きさもみたらいい。」

「同じです」「他にあります」など、先ほどのこともあったのか自分の反応を返すこと増えました！司会が「男子は（定員2名なので）決定でいいですか？」「でも、一応思いや気持ちは伝えてもらったらいい」という意見から、この5人に応援団にかけの思いを話してもらいました。

「やったことがなくて、一度やってみたくて思ったから。」「最後だからやってみたくて。」「やったことがないから、責任感をつけたい。」「やったことがないので、6年生最後の思い出にしたい。」「4年生の時やったことがあるけど、団長をやりたいし、6年生もやってみたくて。」

この後、選ぶ基準をどうするか出し合い、「恥ずかしがらない」「姿勢」「速さ」「大きさ」など出されました。この基準の下「3. 3. 7拍子～！」を全員に言ってもらいました。途中、先ほど言葉を出せなかったE男が「お！いいね」と声をかけるなど、クラス全体に拍手や自然な反応がでました。多数決の結果、僅差で決まりました。この時、先ほど拍手を出せなかったJ子は残念ながら応援団になれませんでした。決まった後すぐに、2人に対して笑顔で拍手をしていました。その姿が素敵で、（みんなもそう思ったらしく）J子にも拍手が起きました。団長をどうするかは、声の大きさから自分から辞退しもう一人に任せたK男の姿がありました。これも自分の思いよりも、友達の力を素直に認める素敵な姿でした。団長になったO男がみんなに向けて一言気合を入れてくれました。

「赤組！優勝するぞ！！！」 みんな「オーッ！！！」

3. 分析に基づく成果と課題

子どもたちが自発的・自治的な話し合いを展開するために、担任が子どもたちに付けたい力には、本当に様々なものがあることが、今回の出来事を通して改めて分かった。振り返り（参考資料1）からも今回の話し合い活動は3時間使ったが、とても大切な時間になったと思う。この後の話し合い活動にも少しずつ高まりが感じられるようになってきた。今後も、担任がしっかりとしたねらいや見通しをもち、社会生活を営む上で必要な「生きる力」につながる、自主的・実践的な態度を育てられるような取り組みを重ねていきたい。また、学級便りに学級会での様子やそこから考えたことを載せることで、クラス全体に互いの考えを広めること、家庭にも広めることで、家族で話す機会にもなったようだ。（参考資料2）

参考資料1 学級便り「STAR」No.22より

学級会の様子「運動会に向けて」⑤感想から

- ・ 本当は綱引きがしたかったけど、6年生で最後だからリレー選手で頑張ろうと思って手を挙げたら、本当に私でいいのか？と思うくらいシーンとなってちょっとさびしかったです。でも、司会が言うと次々と言われてほっとしました。反応をしないと本当にさびしいんだなと、意見を言う人の気持ち、しゃべる人の気持ちが分かったので、反応を返そうと思いました。（B子）

- ・ 「ありがとうございます。」と言おうと思ったけど、その時の雰囲気に向けて言えませんでした。そしてこういう時ってどう言えばいいんだろうと悩んでいるうちに司会が言ってしまいました。今思うとあの時言っておけばすっきりしたのにと後悔しています。(E男)
- ・ B子さんが思いをまげて立候補したとき「なんて素晴らしいんだろう」と思いました。手をたたこうとしたけど、他の人がやっていなかったので、やろうとする気持ちを捨ててしまいました。「誰かが言うまで待ってしようかな。でもせっかく手を挙げてくれたのに・・・」私の心は揺れました。どうするもこうするも一人でやることははずかしいとっていたのでした。でも、今日一日たってその気持ちは変わりました。今では逆にあの時、何もしてあげられなかった自分を情けなく思います。本当に今日のことがあって、これから人任せにするのはやめて、自分で少しでも一人でもできる人間になりたいと思います。(J子)
- ・ ぼくは周りを気にしてしまって、「よろしくお願いします」を言えなかったから、今度からは、今日みたいに黙っていないで、意見があるときはちゃんと言いたいと思いました。
- ・ B子さんが言ったとき、音なしの拍手を3回くらいしたけど、自分が一番最初に反応するのが自信がなくて、できなかったことが少し後悔しています。でも、頑張って手を挙げたのに反応がないと自分だったらさびしいし、悲しいからやっぱり反応すべきだなと思った。後、最初にする人がいるんだということを思うと、人に頼っている気がしてきました。もっと自分らしい反応が思ったままに言えるといいと思います。
- ・ リレーの選手に手を挙げようと思ったけど、足が遅いしビリになったら責められると思ったからやめた。途中で「負けてもいいし頑張ったら責めない」という声が出て、出ようかなと思ったけど、リレーのほかの選手は足が速かったのでやめました。最初は人任せにしていたけど、今度からは自分もクラスの一員として頑張っているいいクラスにしていきたいです。
- ・ B子さんが言ってくれたとき、J子さんが手をたたこうとしていたから、私も手をたたこうとしたけど、みんなたたかなかったから、私はたたきませんでした。すぐ拍手をすればよかったです。だれもたたかなかったら悲しいからです。だから今度から誰かがすごい！えらい！ということをしたらすぐ拍手をしたいです。

学級便り「STAR」No.23より

学級会の様子「運動会に向けて」⑥感想から

- ・ 「ありがとう」とどうして言えなかったんだろう。今は人の目なんか気にしないですればよかった。B子さんはどう思っているのかって考えればきっと私は言っていたかもしれない。そう思います。これからはその人の身になって考えて行動していきたいです。
- ・ 「よろしくお願いします」という気持ちがあったけど周りの目を気にしてしまっていえなかった。自分に勇気がなかったことがわかった。けど、先生にそのことを言われてからは意見を言ってくれる一人一人に反応を返せたと思う。
- ・ 僕は、リレーとか走るのはあんまり得意じゃないし、あんまり出たくなかった。だから、女子の人たちの気持ちは分からなくもない。でも、そこで何か言い合っているうちに、B子さんがリレー選手に出てくれた。僕は「えらいな」と思ったけど、なぜか何にも言葉が出なかった。そのせいで先生が恐い顔になって怒った。先生の言ったことはよくわかった。これからはなるべく返事をしようと思った。
- ・ 今度からこんなことがあったら立候補しようと思います。もしなれなくてもフォローしてあげて、ぼくも自分のできる限り、出せる限りの力を出して頑張ります。

- ・ B子さんが言ったとき、私はどういう反応をしたらいいのか考えていて、黙っていました。先生の話から、自分も含めてみんな人を頼ってばかりいるんだなと思いました。少しずつ人を頼らないでいこうかなと思いました。
- ・ 僕は拍手をしようと思ったけど、周りの様子を見たらみんな何もやっていなかったの、やめてしまった。今度からは周りのことを見ずに、自分の意思でやっていきたいと思った。話し合いで一度も発言しなかったから、しとけばよかった。今度のみんなの話し合いでは、話すように頑張る。
- ・ 私は綱引きがやりたかったから手を挙げなかった。B子さんが言ったとき私はびっくりしてしばらくポカーンとしていた。B子さんもつなひきをやりかっただのに、その気持ちを乗り越えて手を挙げたB子さん、ありがとう。そして頑張るね。
- ・ 私はあんまり速い方でないから、みんなに迷惑をかけたくなかったし、リレーの選手はきっとプレッシャーが強いと思っていたからなかなか手を挙げられなかった。「負けて何か言われたらみんなまで守ればいいじゃないか」と言ったので手を挙げようかなと思った。男子の選手も負けてもいいから出てください。と言ったので手を挙げようかと思ったらB子さんが手を挙げた。けど反応を返せませんでした。だから授業のあと、「ありがとう」という気持ちを伝えました。反応を返すように努力することと、人がやらないし自分もやらないではなく、自分から言えば（反応を返せば）いいということが分かりました。

学級便り「STAR」No.24より

学級会の様子「運動会に向けて」①感想から

- ・ B子さんが手を挙げた時、すごいありがたいと思った。その時、一番初めに（司会として）「お願いします」といったのは私だけけど、私も悪いと思う。訳は、「お願いします」の前にすごく長い時間があったから、もっと早く伝えればよかったです。
- ・ みんなが「お願いします」と言った時、自分は「頑張ってください」と言おうとしたけど、みんなにつられて「お願いします」と言ってしまった。だからこれからは、自分らしい反応を返すために、みんなと違おうが、ちゃんということにした。
- ・ B子さんがリレー選手になるって言った時、僕は「よろしくお願いします」と言いたかったけど、周りの人を見て言いにくくなって、司会の人言った後に言ってしまった。これからは沈黙がないようにしたいです。そのために、すぐ反応を返します。
- ・ 私は「拍手をしたほうがいいのか」と思いながら、「だれか先にやらないのかな」と人任せにしていました。だから私は今度から人が何もしなくても「やったらいいのか」と思うことはやろうと思いました。先生が言った「恥ずかしがらずに何にでもチャレンジ！」しようと思いました。
- ・ （団長）・・・僕は小学校の思い出としてやってみようという気持ちがあったから立候補した。いろいろ大変なことがあるかもしれないけど、責任を持って明日の発足会で（団長に）手を挙げます。赤組が優勝できるように頑張るぞ！

子ども達の感想を見ていると、反応がなくて叱ったけれど、あの時一人一人がいろいろ考えていたんだな、葛藤していたんだな、とそこでは見えなかった心の中の言葉が聞けました。また、あんなに叱って申し訳なかったなと反省する反面、それで何か感じてくれた子もいたことが嬉しく思いました。この他にも、クラスで何か考えてほしい場面があると、話し合いや考えさせる機会を設けています。さまざまな出来事を経て、一人一人の思いを、本音を出し合いながら、お互いを理解しながらクラス

としてまとまっていけたらと思います。本音で語り合える、そんなクラスにしていきたいと考えています。

ご家庭で、子ども達はこの出来事を話したでしょうか？保護者のみなさんは、この“学級会の様子「運動会に向けて」”シリーズをお読みいただき、どのような感想をもたれたでしょうか？できましたら、お子さんと話したことや、読んでの感想をお聞かせいただけたら嬉しいです。お願いします。

※ 下の欄に書いていただいても、連絡帳などでもかまいません。匿名でも構いませんので、是非！

と欄を設けたところ、何人かの保護者の方から返事を頂いた。

参考資料2 学級便り「STAR」No.37より

保護者の方から・・・

- ・ 大人の世界でも共通してある場面だと思いました。周りに合わせることも必要なときもあるけど、自己表現をもっとできる人になって欲しいですね。人の話は目で聞き、うなづくなり反応を返すと、みんな気持ちよく話し合いができますね。でも、みんなそれぞれの考えを持っているのには感心しました。さすが6年生。この学級会の様子の「STAR」を読んで、私もいろいろ考えるきっかけになりました。
- ・ 言葉や行動で現す事の大切さがよくわかりました。先生のすばやい反応のおかげで、みんなの心の中でありがたい気持ちでいっぱいになっていた事がわかり素晴らしいです。私もちゃんとあいさつをしておけばよかったと後悔する事がよくあります。子供にも、あれ、ちょっと??と思った時はすばやく反応しなくてはと思いました。赤組、優勝おめでとうございます。
- ・ 昨日は本当に素晴らしい運動会を見せて頂き、ありがとうございました。小学校最後の運動会という事もあり、開会式から胸が熱くなり、若い力ではどうなることやら・・・でした。娘の応援団でがんばる姿にも涙が出てしまいました。本当に感動がいっぱいの運動会でした。何ととっても「リレー」優勝！今までのSTARの運動会に向けてを読ませて頂き、B子さんの勇氣ある行動にすぐに反応できなかった事が私も残念に思いました。ただ、みんなの心の中では、“ありがとう”や“拍手”をしていたようですが、やっぱりそれでは伝わらないし、恥ずかしがらずに自分の思ったことを伝えることができる事が出来たら素晴らしいなぁーと思います。もし、自分がB子さんだったら・・・と相手の気持ちも考えてあげる事が大切だと思います。B子さんの“本当に私でいいのか？”と思うくらいシーンとなってさびしかったです”という気持ちを思うと辛いです。そう思わせてしまった事を反省し、これからは子ども達が書いた感想の通り、すぐに反応を返すことが出来るようになる事を願っています。とにかく、いろいろありましたが、リレー第一位！！おめでとうございます！勇氣を出して出場してくれたB子さんにも悔いのない最高の結果が出せて本当に良かったです！その上、赤組優勝。最後の運動会、最高の思い出になりました。本当に楽しませて頂きました。先生方皆様お疲れ様でした。追伸・・・これからいろいろある行事を、私も娘も共に楽しみたいと思っております。これからも宜しくお願い致します。
- ・ No.26 STARを読んで・・・。“赤組優勝”おめでとうございます。6年生で優勝できるのは最高に幸せですね！！絶対に忘れない思い出になると思います。又、笑顔でいっぱいの写真ありがとうございました。優勝あつての笑顔とはいえ、とても素敵な顔をしている子ども達の表情を見せて頂いて、嬉しく思います。息子が話してくれない？学校・クラスの様子が“STAR”を読んでよく分かるのでこれからも楽しみにしていきます。